

防コミの歩き方



絶景の獅子ヶ池などで年2回の防災訓練(長田区・丸山地区防コミ)

●歓声が上がった獅子ヶ池での放水訓練

都会のオアシスである絶景の「獅子ヶ池」に、2本の消防ホースからドドッと音を立てて池の水が勢いよく飛び出し、水面に大きな波紋が広がります。長田消防団第1分団(外浦正吉分団長)の団員たちの指導を受けて、消防ホースを持つ子どもたちの歓声が周囲の山にこだましました。

これは、平成27年5月31日午前10時から、抜けるような青空の下で実施された長田区の丸山地区防災福祉コミュニティ(豊福正三本部長)と名倉地区防災福祉コミュニティ(植野久仁子本部長)との合同消火訓練大会でのひとコマでした。続けて、バケツリレーによる初期消火。最後に心肺蘇生の仕方として、心臓マッサージとAEDの使い方を訓練しました。

●約200人の住民が参加し汗流す

11月22日午前10時から実施された平成27年最後の訓練は、例年と少し趣向を変えて、神戸市立丸山コミュニティ・センターとの合同消防訓練。約200人の住民はまず桜川町公園に集結、訓練用水消火器による消火訓練、小型動力ポンプを稼



働しての放水訓練、油火災に対する粉末消火器での消火訓練を実施した後、約100m離れた丸山コミュニティ・センターまで集団で歩く避難訓練をおこないました。車いす3台に乗っての避難や、竹2本に毛布を巻いて即席に作った担架に子どもを乗せて避難するなど、実地に即した訓練をしました。

その後、丸山コミュニティ・センターの2階大ホールに集合した住民たちは、自動火災報知設備のベルの鳴動と館内放送で1階厨房からの出火を確認、非常階段で2階から1階に避難、待ち受けた「煙ハウス」の通過体験をおこないました。訓練を終え、炊き出し訓練で振る舞われたカレーをおいしく食べながら、「煙ハウスに入ったら、何も見えない」4～5m進むだけでも大変だ「本当の火事だったらと思うとぞっとする」と、煙の怖さを語り合っていました。

●おたすけガイドづくりにも挑戦中!

いま、防コミでは、春完成をめざして、丸山地区住民自治協議会(富澤孝会長)など16団体と共に「丸山地区おたすけガイド」づくりに全力を挙げています。

南海トラフ大地震など大規模災害を念頭に、どう逃げるのか、どこへ避難するのか、どこに運営本部を設営するのか、避難所運営はどうするのか、多くの課題があります。阪神・淡路大震災の教訓を生かし、次の災害に備えます。

(丸山地区防災福祉コミュニティ 副本部長 福井常三朗)